

サトリの  
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗妙海寺住職  
佐々木教道さん

第70回

私が住職になったのは24歳のとき。でも、お寺の中でただ法務をしていたのでは誰も来てはくれません。だから私は「自分が外へ出ていこう」と考えました。そして思いついたのが音楽活動です。お坊さんの姿では病院や学校などからは敬遠されてしまいます。でも音楽ならOK。「音楽で仏教を広めよう」と思い立ち、未経験ながら作詞作曲を始めました。

1曲1曲作り続け、5年、10年と続けていると、テレビやラジオに取り上げられるように。そこでようやく「住職は遊びでやっていい

るわけじゃないんだ」と周囲の理解が得られるようになりました。それから音楽活動が定着し、勝浦市のご当地ソングを作ったり、B-1グランプリでゴールドグランプリを受賞した「熱血!! 勝浦タンタンメン船団」の応援ソングを作ったり。今ではお寺でライブも行っています。

捨てられる魚を活用した  
新たなご当地グルメを開発

勝浦はもともと漁業の町。でも、漁師さんは後継者不足という深刻な問題に直面しています。このままでは漁師さんがいなくなったり、町もなくなる。町がなくなったら、お寺の存在意義もなくなります。町の未来、そしてお寺の未来のために何ができるのか……そんな思いから、お寺のスペースを利用して地域の未来を考える会議を開いています。漁業の勉強会なども行い、地域活性化のヒントをお寺から発信する場となっています。

現在はシイラという魚を使ったご当地グルメ「勝浦マヒマヒ」の商品化を進めています。勝浦は日本有数のカツオの水揚げで知られますが、漁ではシイラもよく獲れます。でもシイラはほとんど市場に出回ることがなく、売れない



上/5月に行われた「寺市2016」。マーケットやライブパフォーマンスなどで盛り上がった。  
下/1泊2日のお寺体験「テンプルステイ」。静かなお寺で瞑想などをいりリフレッシュ。

めに捨てられてしまう。これはもつたいない、と思つたわけだ。  
ハワイではマヒマヒと呼ばれ、フライは観光客にも人気。私は漁師さんからいただくのですが、食べることもおいしい魚です。そこで昨年、「ONE勝浦」という企業組合を立ち上げ、シイラの活用プロジェクトをスタートさせました。何度も試作を繰り返して、この夏にはいよいよ販売予定です。

さまざまな活動を通して  
菩薩という生き方を伝えたい

こうしたさまざまな活動は、実は取人にはなりません(笑)。でもお寺の法務だけではけつして得られない経験をし、同じ目標に向かって協力し合う仲間と、それを喜んでくれる人に出会える。私はそこにやりがいを感じています。

私が目指すのは菩薩という生き方。世の中の役に立ちたいと願い、それを実行する人。自分の幸せと他者の幸せを重ねて生きられる人です。そこには充実感と喜びがあります。お寺はそんな菩薩のような生き方を伝えていく場所でもあると思っています。

役に立つことなら何でもやる！  
お寺発の地域活性化を目指して

ささき・きょうどう 1977年生まれ、千葉県出身。2000年に立正大学仏教学部卒業後、千葉県勝浦にある妙海寺に入寺。2002年、24歳で住職となる。寺カフェや寺シネマ、寺ヨガ、寺市など、お寺発信のさまざまなイベントを企画。地域活性化につながるお寺の可能性を日々追求している。妙海寺/千葉県勝浦市新官174 <http://myokaiji.jp>